

地方における新たな検査機会の開発 医療者からの検査推奨による MSM の検査受検環境改善

研究分担者 健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）
研究協力者：山本政弘（独立行政法人国立病院機構 九州医療センター）
伊藤俊広（独立行政法人国立病院機構 仙台医療センター）

研究要旨

H28 年度に実施した男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究において、MSM における HIV 陽性患者は、MSM のコントロール群に比して HIV 受検率が有意に低いことを示した。そこで H29 年度は下記の研究を実施した。

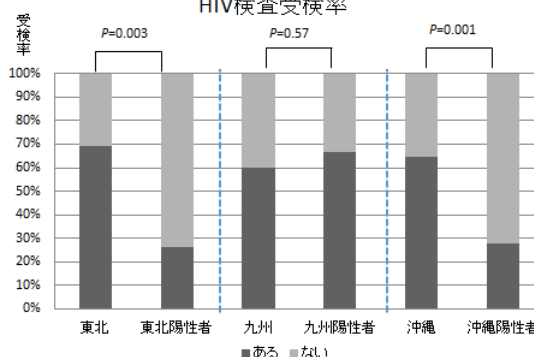
1. 既存医療施設外での HIV 検査
2. 1 の検査の有効な広報手段の検討
3. 医療機関における HIV 検査の普及・啓発手段の検討

A. 研究目的

HIV 新規発生患者は東京、大阪、名古屋などの大都市では横ばいもしくは減少傾向にあるが、地方においては依然、増加傾向にある。H28 年度に実施した男性同性間性的接触による HIV 陽性者の予防啓発との接点および早期検査・受診に関する研究において、沖縄、仙台、福岡の HIV 陽性患者を対象としたアンケート調査により MSM における HIV 陽性患者は、クラブイベント、商業施設利用者などの MSM コントロール群に比して HIV 受検率が有意に低いことを示した（図 1）。本邦における HIV 感染の拡大を抑止するためには従来と異なる検査機会の提供が必須である。そこで本研究では下記の 3 つを実施した。

1. 既存医療施設外での HIV 検査の提供効果
2. HIV 検査の有効な広報手段の検討。
3. 医療機関における HIV 検査の普及・啓発手段の検討

図1 地域別コミュニティサンプルと陽性者の HIV検査受検率



B. 研究方法

1. 既存医療施設外での HIV 検査の提供効果
沖縄県の最大 MSM 商業施設がある那覇市内の MSM コミュニティ施設において HIV 検査所を開設した。

検査項目はイムノクロマト法を用いた迅速検査にて HIV (HIV-1/2 抗体、P24 抗原、ダイナスクリーン社) および梅毒 (T・PAb ダイナスクリーン社) を用いた。電話またはネットによる予約制とした。受検者には任意で本研究班のアンケート調査を依頼した。検査結果は受検受付から 45 分後に設定した。

検査日 2018年2月17日 10-15時。

設定予約数は30人であった。

検査スタッフの構成

HIV 専門医師 3人(琉球大学医学部附属病院、
沖縄県立中部病院、那覇市保健所)

HIV 担当看護師 3人

Mabui 沖縄スタッフ・ボランティア 3人

2. HIV 検査の有効な広報手段の検討

広報手段は、コミュニティペーパー、MSM
専用掲示板、MSM 専用アプリへのバナー広告
とした。

3. 医療機関における HIV 検査の普及・啓発 手段の検討

医療機関における HIV 検査を促進するため、
どのような患者に検査を実施するかを簡便に
まとめたリーフレットを1000部作成し、沖縄
県医師会より会員へ配布した(付図参照)。

C. 研究結果

1. 受検者数

予約数18人に対して、来場者は18人で全
員が予約時間を概ね厳守して受検した。当日
参加希望が4人で合計22名が受検した。

HIV 陽性者は0人、梅毒は1人。

D. 考察

1. 既存医療施設外での HIV 検査の提供効果

従来の保健所における MSM 検査会の受検者
8-10人の2倍の参加者が来場した。予約して
来場しなかったのは0人で、予約時間も厳守
されていた。これらのことから、保健所外で
の HIV 検査会は受検者の HIV 検査への心理的
ハードルを下げることに効果的と考えられた。

一方、医師、看護師の勤務外での病院外の
医療活動は、派遣許可および賃金支払いに関
して、病院事務部門が難色を示した。また有
害事象発生時の傷害保険や対応についても多
くの課題があることが明らかとなった。これ
らのことは、医療施設外での HIV 検査会実施

において今後の事業継続の課題である。また、
保健所、医療施設外での採血などの医療行為
は保健所の許認可が必要であり、今回は承諾
までに時間を要した。

2. HIV 検査の有効な広報手段の検討

今回は、HIV 検査会のゲイ向けアプリ
(9monsters)、掲示板を利用した広報周知期
間はわずか1週間であったが、18人の参加者
を集めることができ効果的と考えられた。

3. 医療機関における HIV 検査の普及・啓発手 段の検討

県医師会はリーフレット作成の意義につい
て賛同を示し、配布も医師会主導で実施した。
今後は本リーフレットを利用した救急施設、1、
2次医療機関への講演を行ってさらなる啓発
に努める予定である。

E. 結論

1. HIV 検査会は受検者の HIV 検査への心理的
ハードルを下げることに効果的と考えら
れた。

2. アプリ、掲示板を利用した HIV 検査会の広
報は効果的と考えられた。

F. 研究発表

1. 論文発表

1) Ogawa S, Hachiya A, Hosaka M, Matsuda
M, Ode H, Shigemi U, Okazaki R, Sadamasu
K, Nagashima M, Toyokawa T, Tateyama M,
Tanaka Y, Sugiura W, Yokomaku Y, Iwatani
Y. A Novel Drug-Resistant HIV-1
Circulating Recombinant Form CRF76_01B
Identified by Near Full-Length Genome
Analysis. AIDS Res Hum Retroviruses 32 3
284-289 2016

2) Evaluation of the Lipid Concentrations
after Switching from Antiretroviral
Drug Tenofovir Disoproxil
Fumarate/Emtricitabine to Abacavir

Sulfate/Lamivudine in
Virologically-suppressed Human
Immunodeficiency Virus-infected
Patients. Arae H, Tateyama M, Nakamura H,
Tasato D, Kami K, Miyagi K, Maeda S,
Uehara H, Moromi M, Nakamura K, Fujita
J. Intern Med 55 23 3435-3440 20162.

2. 学会発表

- 1) 健山正男, 上 薫, 仲村秀太, 宮城一也, 金城
武士, 鍋谷大二郎, 原永修作, 藤田次郎,
HIV 関連神経認知障害の病態と診断, 第 87
回日本感染症学会西日本地方会学術集
会, 5 シンポジウム, 長崎市, 2017. 10. 27.
- 2) 兼久 梢, 健山正男, 喜友名朋, 新里 彰,
新垣若子, 鍋谷大二郎, 原永修作, 屋良さ
とみ, 藤田次郎 cART 未導入、HIV 感染血
友病患者における透析導入の一例, 第 31
回日本エイズ学会学術集会・総会. 東京,
2017. 11. 25.
- 3) 健山正男, HIV 陽性患者アンケート解析か
らみた HIV 検査における課題, 第 31 回日
本エイズ学会学術集会・総会, 5. シンポジ
ウム, 東京 2017. 11. 25.
- 4) 椎野禎一郎, 健山正男, 石原美紀, 南 留美,
蜂谷敦子, 横幕能行, 吉田 繁, 近藤真規子,
貞升健志, 古賀道子, 森 治代, 杉浦 互, 吉
村和久, 国内伝播クラスタの検索プログラ
ムの開発: 未知の塩基配列の所属する伝播
クラスタの解析力の検証, 第 31 回日本エ
イズ学会学術集会・総会, ワークショップ,
東京, 2017. 11. 26.
- 5) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 當山国江,
石郷岡美穂, 友利晃子, 諸見牧子, 上原 仁,
大城市子, 辺土名優美子, 上 薫, 石原美紀,
島袋奈津紀, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次
郎, 沖縄県内訪問看護ステーションの職員
が抱く HIV/AIDS 患者の受け入れに関する
現状調査 - 第一報 -, 第 31 回日本エイズ
学会学術集会・総会, 東京, 2017. 11. 24.
- 6) 前田サオリ, 宮城京子, 健山正男, 諸見牧子,

上原 仁, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺土名優
美子, 本永久美子, 大嶺千代美, 藤田次郎,
緊急入院・緊急透析となった患者の意思決
定支援, 第 31 回日本エイズ学会学術集会・
総会, 東京 2017. 11. 24.

- 7) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 湯永博之, 渡邊 大, 長
島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 南 留美, 吉
田 繁, 小島洋子, 森 治代, 内田和江, 椎野
禎一郎, 加藤真吾, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟,
伊藤俊広, 猪狩英俊, 寒川 整, 石ヶ坪良明,
太田康男, 山元泰之, 古賀道子, 林田庸総,
岡 慎一, 松田昌和, 重見 麗, 濱野章子, 横
幕能行, 渡邊珠代, 藤井輝久, 高田清式, 山
本政弘, 松下修三, 藤田次郎, 健山正男, 岩
谷靖雅, 吉村和久, 国内新規 HIV/AIDS 診断
症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向, 第 31
回日本エイズ学会学術集会・総会, 東京,
2017. 11. 25.

G. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得
無し
2. 実用新案登録
無し
3. その他
無し

付図：医療機関における HIV 検査の普及・啓発リーフレット

Human Immunodeficiency Virus

HIV 検査が 勧められるべき患者

帯状疱疹	性感染症
カンジダ感染症 (口腔内、食道、膣)	ウイルス性肝炎 (A 型、B 型)
伝染性単核球症に 類似した症状	結核
繰り返す細菌性肺炎	アメーバ赤痢
血液異常	無菌性髄膜炎
びまん性間質性肺炎	※詳細は裏面をご覧ください。

1. 急性 HIV 感染症について

感染から 2-4 週後に認められ 10-14 日間持続する。75% の感染者が医療機関を受診する。ウイルス量が極めて多く、他者への感染力が高い。高熱、強い咽頭痛（びらん、潰瘍など）、両側後頸部リンパ節腫脹が認められ、血液検査では WBC 低下、PLT 低下、肝酵素上昇。皮疹を伴う場合（25% 程度）は HIV が強く疑われる。インフルエンザ、伝染性単核球症と誤診されることが多い。

2. HIV 検査の保険診療請求について

平成 24 年度診療報酬改定により、算定要件が「性感染症がある場合」だけではなく「性感染症の既往がある場合」や「性感染症が疑われる場合」で「HIV 感染症を疑う場合」に拡大された。検査実施の理由を記載すれば算定される。

3. HIV 検査の同意について

HIV 検査の実施においては、受検者より同意取得が必要であるが、厚生労働省の通達では、同意取得に関して書面は必須でなく口頭でも可能であり、同意が得られたことをカルテに記載すれば問題はない。

琉球大学大学院医学研究科
感染症・呼吸器・消化器内科学

Human Immunodeficiency Virus

HIV 検査が 勧められるべき患者 **解説編**

帯状疱疹

短期間に繰り返し返す場合や複数のデルマトームにまたがる場合、若年者は特に注意する。

性感染症

梅毒、尖形コンジローマ、淋病、クラミジア、トリコモナスなどの性感染症

カンジダ感染症（口腔内、食道、膣）

エイズで最も多い。口腔内白苔や嚥下痛を伴う場合は食道カンジダ症の除外が必要。

ウイルス性肝炎（A 型、B 型）

急性 B 型肝炎で遷延化するゲノタイプ A が性行為感染症として拡大している。HBV の治療前には、必ず HIV スクリーニング検査が必要である。必ず HIV スクリーニング検査が必要である。

伝染性単核球症に類似した症状

急性 HIV 感染症の症状として 5-9 割の患者に認められる。

結核

HIV 感染者の生涯発生する確率は 10% とされ、結核患者では全例、実施する。

繰り返す細菌性肺炎

発見の動機として重要視される。1 年以内に 2 回以上繰り返す場合は実施する。

アメーバ赤痢

本来は経口感染であるが、近年は同性間感染を中心に性感染症との認識が必要である。

血液異常

白血球減少、血小板減少。明らかな原因が認められない場合には HIV を除外する。

無菌性髄膜炎

急性 HIV 感染者の 10% 程度に認められる。他のウイルス性疾患と類似し鑑別は困難であるが、無菌性髄膜炎が疑われる場合には HIV を鑑別する必要がある。

びまん性間質性肺炎

エイズ患者ではニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス肺炎に代表される疾患がびまん性間質性肺炎像を呈する。ステロイドが単独投与された場合は致死的である。HIV 感染を必ず除外することが重要である。

本リーフレットは下記の事業で作成しました。
厚生労働省エイズ対策政策研究事業
MSM に対する有効な HIV 検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究
琉球大学大学院 感染症・呼吸器・消化器内科学 健山 正男

琉球大学大学院医学研究科
感染症・呼吸器・消化器内科学